2011年 Vol. 12月15日号 (平成23年)



民会議が 案」を市

ハ王子の将来への思いを込めて

は、市が実施する事業の総合的な指針 特集号」でお知らせしたとおり、市で 策定作業を進めています。 となる、新たな基本構想・基本計画の 8月15日付「新基本構想·基本計

せられた意見の検討や企業などへのと の皆さんの手で行われました。市民会 けてきました。 アリングを行うなど、活発に活動を続 を公表し、市民意見を募集。その後、寄 議は今年1月に発足。「中間のまとめ その素案づくりは、184名の市民

素案を市長に提出

幸せを感じられる八王子にしていきた りの主役として活躍し、家族や地域が 動を経て、去る12月3日に報告会を開 内容説明が行われました。 い」という思いを込めた素案の市長への 支え合い、信頼の絆で結ばれ、だれもが 告会では、「市民一人ひとりがまちづく 催し、市長に素案を提出しました。報 市民会議は、延べ232回に及ぶ活 この特集号では、素案にうたわれてい

まちづくりの基本理念

「人とひと、人と自然が響き合い、みんなで幸せを紡ぐまち八王子」

私たちのまち八王子は、高尾・陣馬の山並みや、清らかな湧水を集めて流れる浅川の清流、 美しい夕焼けの風景など、やさしさとうるおいのある自然にいだかれた故郷です。また、古くから 交通の要衝として多彩な人々が交流し、賑わいの中で先人たちの知恵が響き合って形成され たまちです。

自然と歴史に恵まれたこのまちの魅力を次世代へ引き継ぎ、持続可能な社会を創造するとと もに、人々が支え合いながら信頼の絆で結びつき、生きる喜びと幸せを感じられる八王子を実 現していきたいとの思いから、この基本理念を定めました。

みんなで担う公共と協働のまち



東日本大震災や原発事故の惨状を目の当たりにした私たちには、次のようなことが見えてきました。

- ◎人はひととのつながりのなかで共感しながら生き、信頼の絆でつながることで安心感が生まれ、幸福 感が得られる。
- ◎一人ひとりの力は小さくても、各自ができることを結びつけることで共助の輪を広げ、支え合い、絆が つながり、その共助の精神が活気あるまちづくりの基本になる。

行政に対する「おまかせ」や「批判」だけで良い市政は実現しません。これからの八王子をより良くす るためには、私たち市民がまちづくりへの「提案」をおこない、役割を「担い」、行政を「応援」していく ことが必要です。

分科会の名称には、私たち市民、町会・自治会、NPO等市民活動団体、大学、企業などは、行政と ともに 「新しい公共 | の一員であるという意味が込められています。私たちは、町会・自治会をはじめ、 地域の各団体や市民をつなぐしくみ、人材の育成、市と市民の情報共有のあり方、市民との協働による 新たな財源の発見など、みんなで担う「新しい公共」の実現を目指します。

あるべき姿 (私たちが目指すまちの姿)

多様な市民ニーズに対応したまちづくりを進めるために、私たち市民自らが課題解決に向けて行政と ともに取り組んでいます。

市民も当事者として、お互いを気づかいながら支え合い、自分たちが社会を担う主体であるという意 識をもって活気あるまちづくりを進めています。

市民が幸せと感じるためには何を優先すべきかを常に考え行政運営をおこなう、「幸福度ナンバーワ ン のまちとなっています。

市民がさまざまな方法によりまちづくりに参画することができ、市民活動に対する支援が十分整って おり、多様な主体が公共の担い手になっています。

地方分権に関する市民の関心が高まり、市は住民に身近な基礎自治体として健全な財政運営堅持の もとで、市民の視点に立った行財政運営がおこなわれています。

解決すべき主な課題

- (1) 幸福度ナンバーワンを目指したまちづくりの推進
- (2) 自立した協働のまちづくりの推進
- (3) 市民の視点に立った地方分権の推進
- (4)歳入の確保とムダな歳出の削減による健全財政の実現
- (5) 「みんなで担う公共」の考え方に基づく自治体行政運営の推進
- (6) これからの自治体職員に求められる資質の向上



健康で笑顔あふれる、ふれ愛・支え翼

趣

ゆめおりプランの素案が策定された10年前に比べて、教育・福祉・医療などさまざまな分野で随分 改善がなされてきました。しかし、残念ながら私たちが日常抱える不安、不満のすべてを解消するには 至っていません。高齢者の暮らし、子育ち・子育ての環境や医療体制、災害への備えには、具体的かつ 有効な施策が必要です。また、虐待、家庭内暴力(DV)、男女共同参画や障害者・外国人に対する支 援に関しても課題が山積しています。

これらの課題を解決していくためには、市民一人ひとりが、思いやりや知恵、力を出し合い、行政とと もに連携していくことが、今求められています。また、これまでは意識するとせざるとにかかわらず、成 り立ってきた「ふれあい、支えあい」を、これからは強い意志をもった、共助としての「ふれ愛、支え愛」 に高めていく必要があると考えます。私たちが主体となって自ら健康で笑顔あふれる暮らしの姿を描き、 それを行政が支援する、「地域の新しい共助のつながり」をつくっていくことが必要です。私たちは、誰 もが健康で笑顔あふれる、ふれ愛・支え愛のまちを目指します。

あるべき姿(私たちが目指すまちの姿)

市民自らが自分の望む生活を地域とともにつくり上げていく気持ちをもっています。現役世代や単身 世帯の人々など、誰もが地域活動に参加しやすいしくみや大学・企業と地域住民が協力する場が充実 しています。身近な場所に相談窓口があり、誰もが必要な情報を得ることができます。ボランティアと行 政の恊働による地域の支えあいの環境も整っており、市民は安心して暮らしています。また、子どもたち の健やかな成長を地域が一体となって見守り、親は安心して子育てをしています。

そして、安全・安心な消費生活と十分な健診・検診や医療体制も整い、誰もが住み慣れた地域で互い に支えあい、健康で自分らしく生きがいをもって暮らしています。

解決すべき主な課題

- (1)地域の支えあいの担い手を地域のなかから養成し、支援するしくみの整備
- (2) 現役世代や単身世帯の人々が、地域の行事・活動に参加しやすいしくみづくり
- (3) 地域の人々が気軽に集い、交流できる場所と機会の増加
- (4) 地域住民も参画した子育ち・子育てを進めるため、家庭・地域・専門機関・行政をつなぐ、柔軟 で強力な支援体制の確立
- (5) 市民目線の医療環境や相談環境の整備と、それに伴う人材の養成
- (6) 市・ボランティア・福祉サービス事業者が連携し、福祉サービス情報を周知
- (7) 高齢者・障害者・外国人が地域のなかで暮らし続けていくための支援体制の整備
- (8) 高齢者・障害者・外国人など自ら情報を得ることが難しい人も、必要な情報を知ることができ、 それを活用できる情報発信・受信体制の整備

学び合い、豊かな心と文化を創るまち

趣

「無縁社会」という言葉に象徴されるように、人とひとのつながりが希薄になっていることは、未来 を担う子どもたちの育成環境にも影を落としています。ゆとりと支え合いの不足した環境で、豊かな人 づくりができるのでしょうか。

こうした流れを変えていくには、まず私たち大人が夢をもち、「自分らしさ」を求めて活き活きと過ご していくことが必要だと考えます。そして、八王子を愛し、学びの成果を地域の次世代育成や、文化・芸 術の伝承と創造などに活かしていく学びの循環を形成し、お互いに支え合い協働していくことが期待さ れます。

また、仕事と生活の調和がとれたワークライフバランスの観念をもち、現役時代から自分自身、家族、 地域を大切に思うことも必要です。さらに、多方面の都市との文化交流では、お互いの地域の活性化の みならず、東日本大震災の経験からの学びを活かして、災害時には支援し合える関係を築いていくこと も大切であると考えます。私たちは、こうした一人ひとりが学び合い、豊かな心と文化を創るまちを目指 します。

あるべき姿(私たちが目指すまちの姿)

生涯のどの時点でも多くの市民が学び、その成果が次世代育成支援や文化・芸術の伝承と創造に活 かされる、「社会還元型」の学びが広く展開されています。この循環によって、一人ひとりが自ら学び、

心豊かに過ごせ、活き活きと自分を表現できる自立した子どもが育ち、 市民が地域の歴史・文化を愛して新たな文化や芸術を自ら創るまちと なっています。



解決すべき主な課題

<活き活きと自分を表現できる自立した子どもを育てるまち>

- (1)個性を引き出す教育の促進
- (4)家庭と地域の教育力の向上
- (2)児童福祉と教育行政の一本化
- (5)社会性を備えた子どもの育成
- (3)特別支援教育の充実

<一人ひとりが自ら学び心豊かに過ごせるまち>

- (1)仕事と生活の調和による学習・スポーツの促進
- (2) 「社会還元型学習」の促進

<地域の歴史・文化を愛し新たな文化や芸術を市民が創るまち>

- (1)歴史・文化への市民の意識改革
- (2)市民参加による市制100周年記念事業
- (3)都市間文化交流と緊急時の相互支援



安心・快適で、地域の多様性を

油かりたまど



趣

東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、私たちは、「安全・安心」な社会の大切さを あらためて認識しました。そして、これからのまちづくりは、再生可能エネルギーやIT等の新技術とと もに、公共交通や自転車を活用した環境負荷の小さいスマートな社会を目指しながら、人びとが良好な 環境を享受し、「快適」に暮らせる「持続可能なまち」を目指すべきだと考えました。

また、八王子は、過去に9町村との合併により誕生した広大な市であり、歴史や地形に特色がある 「多様な地域」で成り立っています。こうした地域の多様性がもたらしている、人や地域産業、里山・山 林の豊かな自然などを最大限活用し、まちづくりに活かしていくことが必要と考えました。

私たちは、こうした安心・快適で、地域の多様性を活かしたまちの姿を他市に先駆けて実現し、一人 でも多くの人が「住み続けたい」「住んでみたい」と思えるまちを創り、多摩地域の中心都市としての利 便性と活力を実感できるまちを目指します。

あるべき姿(私たちが目指すまちの姿)

八王子の資源である豊かな自然や地域のつながりなどの多様性を活かしながら、少子高齢化や地球 温暖化に対応した「持続可能なまち」になっています。

みどりあふれる良好な環境の中で、また、利便性を兼ね備え、高齢者、障害者、子どもなど誰もが快 適に活き活きと活動し、日々の暮らしをおくることができるまちとなっています。

私たちの生活を脅かす災害や犯罪などに対して、日ごろから地域の つながりの中で備え、安全・安心に暮らせるまちになっています。



解決すべき主な課題

- < 自然と共生し地域の多様性を活かしたまちづくり>
- (1)水系を基本としたまちづくりの推進
- (2)高齢者、障害者、子どもにもやさしいまちづくりの推進
- <快適で人にやさしい交通環境づくり>
- (1)公共交通の充実
- (2)道路整備·渋滯対策
- <地域力を活かした安全・安心なまちづくり>
- (1)防災体制の充実
- (2)災害に強い都市づくり



魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち

国内産業は、リーマンショック後の世界経済の混迷、長引くデフレ経済、近年の急激な円高進行の 影響など、非常に厳しい経営状況下に置かれています。また、市内産業は法人市民税の激減、製造品 出荷額の半減、農林畜産業の減退、中心市街地の衰退などの問題に直面する一方、基軸産業の創出、 豊富な観光資源の活用、自然エネルギー産業への取組みなどの重要な課題も山積しています。

さらに、先の大震災・原発事故は、経済環境への影響のみならず、社会の価値観の転換をもうなが す試練を与えようとしています。

私たちは、産業をおこして経済成長をはかり、豊かな社会を築いてきました。この基本的な方向性は 変わらないものの、価値観の転換は、これからの産業政策・成長戦略の重要な視点になると考えます。 例えば「量から質・付加価値へ、モノからソフト・サービスへ、競争から連携・協働へ、そして原発から 自然エネルギーへ などです。私たちは、こうした状況をふまえ、市・事業者・産業振興支援機関・市民 がそれぞれの役割分担のなかで連携して、魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまちを目指します。

あるべき姿(私たちが目指すまちの姿)

製造、情報通信サービス、商業、観光、農林畜産などの各産業が堅実な発展を遂げて雇用を創出・ 増大させ、活力あるまちが構築されています。また、八王子の特色を活かした産業や、時代の転換に対 応できる産業が創出され、魅力あふれる産業に成長しています。そして、市内中小企業は特色ある強い 企業へと育ち、八王子市は日本のものづくりを支える先端技術産業の集積地となっています。

中心市街地は、商業施設やコンベンションの開催などが誘致され、「おもてなしの心」で出迎えられ た観光客などの多くの人でにぎわい、再生・活性化されています。

さらに、ものづくり技術のソフトウェア化やブランド化された付加価値の 高い農林畜産物の産出および先端のシステムによる健康増進都市の創設 など、政策の質的転換がはかられています。



- (1)産業分野を「基盤・成長・新規・戦略 | などに位置付けたメリハリある政策の実施
- (2)産業ごとの目標指標の明確化および現状の実態調査・統計化
- (3)産業分野ごとのリーダーの育成・確保、中小企業への人材教育の支援
- (4)産業競争力強化のための市・事業者・産業振興支援機関などの連携強化
- (5)地勢的優位性、豊富な人材、市域の大学などの活かし方
- (6)新たな産業創出の視点からの「自然エネルギー産業」への取組み
- (7)観光・農林・自然など八王子の資源や特性を活かした新商品・新事業の 創出



一人ひとりが育てる、人と自然が豊かに

つながるまち



急速に進行する地球温暖化により、世界各地で洪水、干ばつ、水面上昇などの災害が発生し、私たち はこの異常な気象変動が、自分たちの活動に起因していることに気づき始めています。また、日本では、 3・11の東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故で未曾有の被害を受け、原子力に代わる自然エ ネルギーの活用が喫緊の課題となっています。私たちは、この経験から自然や環境への関心がさらに高 まり、安全・安心や、家族、地域の人とのつながりの大切さを改めて知りました。

八王子のみどりと清流は、まちの発展とともに少しずつ減少し、自然環境も喪失しています。市民共 有の財産である、豊かな自然と環境を守り育てるには、市民一人ひとりが積極的に多様な環境保全活 動にかかわり、自然とのふれあいを重視した環境教育を推進していくことが必要です。私たちは、こうし た豊かな自然に親しみ、次世代の子どもたちの未来につながるまちの実現を目指します。

あるべき姿(私たちが目指すまちの姿)

エネルギー分野においては、産学公共同研究開発による自然エネルギーの活用が進んでいます。自 然エネルギーの地産地消化や、地域単位でのエネルギー需給管理体制が一歩ずつ進行し、災害時の ライフラインが確保され、循環型社会に移行しています。市民生活では、地球環境に負荷をかけないラ イフスタイルが広がっています。

みどり・水分野においては、里山はみどり豊かに手入れをされ、河川は清流を取り戻し、子どもたちが 遊ぶ姿が見られます。多種多様な動植物が生育し、多くの市民がまちの環境保全活動に参加し、自然 とふれあい、人とのつながりが深まり、豊かな心が育まれています。市街地の公園はみどり豊かな景観 を形成し、防災拠点としての役割も果たしています。

環境教育分野においては、一人ひとりの自然と環境を守る意識が向上し、ごみの分別や リサイクルが進み、ごみゼロを目指した循環型社会となっています。また、農と食の文化が 継承され、地産地消の食生活が確立しています。学校では、市民の協力のもと自然体験を 重視した環境学習が多く実施され、子どもたちの環境に対する意識が育まれています。



解決すべき主な課題

<エネルギー>

- (1)未利用の自然エネルギーの普及に向けた調査と活用
- (2)省エネルギーを重視したライフスタイルへの転換

<みどり・水>

- (1)里山の恵みを活用した新しい経済活動の創造や産・官・民連携による維持管理
- (2)全河川の水質向上や安全に遊べる水辺環境づくりを総合的に推進する体制の構築
- (3)生物多様性を確保したみどりや水辺の環境創造とネットワーク整備

<環境教育>

- (1)市民・学校・専門家が協力し、学校における体験重視の多様な環境学習の充実
- (2)家庭生ごみの堆肥化と活用など、暮らしに根付く「循環型社会」の推進



~市民会議のあゆみ~

1月17日 ◆発足式 学園都市センター(イベントホール)

公募した 市民184名による 市民会議のスタート!

市政概要説明会(3回 1月22日、30日、2月12日)

2月19日 ◆第1回全体会議、合同分科会

分科会、リーダー会議 スタート! 6つの分科会に分かれて、素案策定に向けた 具体的検討



8月15日 ◆新基本構想・基本計画素案の「中間のまとめ」を公表

(広報で公表し、市民意見を募集)

市民の皆さんから届いた延べ155項目のご意見について検討

起草委員会がスタート! 各種市民活動団体・企業へのヒアリング 市議会議員との意見交換会

12月3日 ◆第2回全体会議、市長報告 活動の集大成として会議名称を 「八王子ゆめおり市民会議 2011」に決定!

八王子の将来への思いを込めた素案を市長へ提出

東日本大震災後は、 節電にも取り組みなが ら検討を重ねてきまし た。活発な議論は4時 間以上に及ぶこともあ りました。





ムページでもご覧になれます。八王子の将来 務所にて配付しています。また、市のホー から市役所本庁舎3階政策審議室及び各

度中に市議会定例会に議案を提出し、平成25の策定作業を進めています。そして、平成24年 いを大切に受けとめながら、平成25年からの現在、市では、素案に込められたその熱い 年4月上旬には、市民の皆さんにお示しする か年を計画期間とした新たな基本構想・計 案の概要を中心に編集し、市民の皆さんに紹 介しました。 の、八王子の将来へ向けた思いが込められた素 この特集号では、市民会議委員 一人ひ

素案を受け